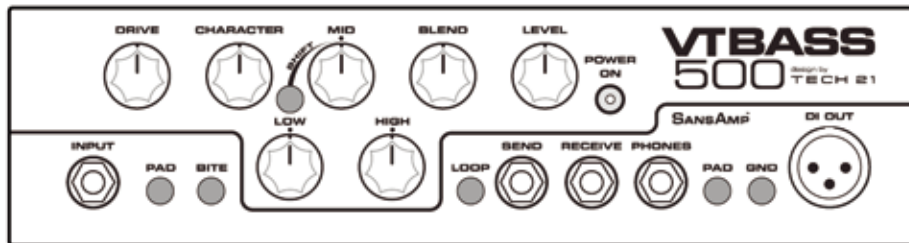


VTBASS 500 design by TECH 21



USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。VT Bass 500 は、オールアナログの SansAmp™ プリアンプとクラス D パワーアンプを搭載した 500 W ベースアンプヘッドです SansAmp Character Series ペダルに搭載された、Character コントロールを搭載し、さまざまなボイスングを自由自在に操れます。さらにゲインとオーバードライブの全体量を調整するための Drive、直接信号と SansAmp Tube Amplifier Emulation 回路をブレンドできる Blend コントロール、プレゼンスブーストを有効にし、歪んだ設定のときにサウンドを引き締めるバイトスイッチを搭載。スタジオやライブ現場では、当社独自の 100% アナログ SansAmp チューブアンプエミュレーション技術により、XLR ダイレクト出力を介してレコーダーまたは PA システムのミキサーに直接接続可能です。

2 使用上の注意



警告

以下の記載次項に反して誤った取扱いをすると、人体に重大な影響（死亡、重傷等）が発生する可能性があります。誤った取扱いは、火災・感電の原因となりますので、くれぐれも行わないで下さい。

電源の電圧について



表示された電圧（AC100V）以外の電圧で使用しないで下さい。火災、感電の原因となります。

分解及び改造について



本機を分解したり改造を行わないで下さい。故障、火災、感電の原因となります。お客様自身で修理・交換が可能な部品は内部にはございませんので修理はお買い求めの販売店へご依頼下さい。

温度について



本機は正常動作時でも、真空管、放熱板、及び各種トランスの表面は高温になります。本機使用中と電源を落としてから30分以内はやけどの恐れがありますので、開口部よりキャビネットの中に手を入れないで下さい。

液体、異物について



本機、もしくはキャビネットの中に付属品以外の機器、異物（可燃性のもの、硬貨、針金などの通電性のもの）や、液体（水やジュースなど）を絶対に入れたり、こぼしたりしないで下さい。またこの機器の上に飲み物を置くこともやめて下さい。万一、異物が入ったり、液体がこぼれた際は直ちに電源スイッチを切り、電源コード等を取り外し、お買い上げの販売店へ修理を依頼して下さい。

電源ケーブルについて



電源ケーブルを無理に曲げたり、上に重い物を載せたりしないで下さい。電源コードやプラグの破損につながり、火災感電の原因となります。

雷について



雷が発生し、雷鳴が聞こえるときは直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、使用を中止して下さい。直接の落雷でなくても、近距離で落雷があった際はコンセントに高電圧が発生し感電する危険があります。

音量について



本機を単独で、もしくはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快なほどの音量で長時間使用しないで下さい。万一聴力低下や耳鳴りを感じたら専門医へ相談して下さい。

開口部及びファンについて



本機のすべての開口部をカーテンや幕、その他物体で塞がないでください。正常に放熱ができなくなり、異常発熱、発火、火災の原因と成ります。また、放熱ファンに、紐、電線、針金、弦などを近づけないでください。



注意

以下の記載事項に反して誤った取扱いをすると、人体及び器物に重大な影響（傷害、器物破損等）が発生する可能性があります。誤った取扱いは、火災・感電・製品破損の原因となりますので、くれぐれも行わないで下さい。

電源ケーブル及び電源プラグについて



- 電源ケーブルを抜き差しする際は必ず、電源プラグを持って行って下さい。
- 濡れた手で電源プラグに触れないで下さい。感電の恐れがあります。
- 長時間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いて下さい。

ヒューズ交換について



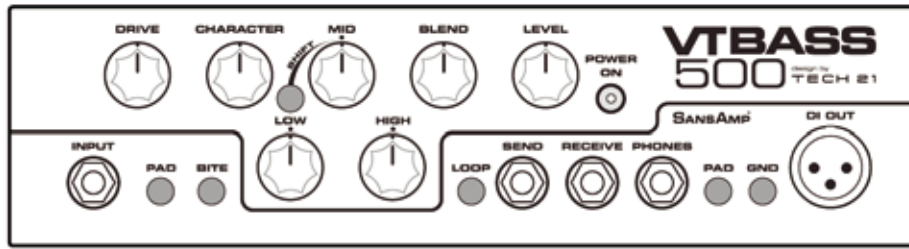
※外側にヒューズホルダーが取り付けられている機種において、ヒューズが切れた場合、ご自身で交換せず、お買い上げの販売店へ修理を依頼して下さい。ヒューズが切れた原因は内部の故障に起因しますので修理を行うことなく再び電源を入れるのは火災の原因となり大変危険です。

転倒注意



カート、スタンド、三脚、ブラケットは、本製品専用またはメーカー推奨品のみを御使用下さい。本製品をカートに乗せて運ぶ際は、転倒による事故に充分注意して下さい。

フロントパネル



INPUT JACK:

1/4" モノラル標準フォン入力。ピエゾも想定された、ハイインピーダンス 4.7MΩです。PAD スイッチを ON にすることで、約 10KΩのローインピーダンスに変化します。これはラインノイズの干渉を減らし、高出力のアクティブピックアップによる過負荷を防ぎます。

PAD スイッチ:

アクティブベースとクリーントーンのための、-10dB のパッドスイッチがあります。接続するには、スイッチを押し込みます。

注：アクティブサーキットはより高い出力を持ち、通常はより多くのノイズを生成します。補正するために、入力パッドを使用することをお勧めします。さらに、楽器本体の EQ をフラットにしたり、Drive、Character、High の各コントロールを下げて試してみてください。

DRIVE:

ゲインとオーバードライブの全体的な量を調整します。12 時の位置までは、音量とオーバードライブが増加し、12 時の位置以降ではオーバードライブのみが増加します。

CHARACTER:

トーンキャラクターを調節します。周波数応答を変更し、アタックとドライブにも影響を与えます。そのため、Character コントロールを微調整した後で、ゲインとトーンの設定を調節する必要がある場合があります。

12 時の位置より下では、70 年代の SVT スタイルのパワーハウス。

12 時の位置では、スタジオの定番、フリップトップ。

12 時の位置を超えると、モダンなロック、インディーベースのサウンドのゲインとクランチが向上。

最大でヴィンテージとモダンな歪んだサウンド。

LOW&MID&HIGH:

本機はカットするだけの従来のパッシブコントロールではなく、ブーストとカットを行うアクティブ EQ コントロールです。

これにより、コントロールの多くの機能が効果的に 2 倍になり、はるかに広い範囲を調節でき、より多様性が得られます。最大の結果を求める場合にも、すべてを最大に設定する必要はありません。コントロールの相互関係に慣れれば、オリジナルなサウンドを簡単にカスタマイズできます。

LOW & HIGH:

ユニティゲインから 12 dB カットまたはブーストします。Low は 55 Hz を中心としています。High は 3 kHz を中心としています。

MID & MID SHIFT スイッチ:

ユニティゲインから ±18dB カットまたはブーストします。中心周波数は MID SHIFT スイッチで選択可能です。

OFF (■): 1 kHz を中心とします。

ON (■): 500 Hz を中心とします。

BLEND:

真空管シミュレーション回路と音源の信号（ドライ信号）のブレンドを決定します。通常、最大（100% SansAmp）に設定します。ただし、ピエゾピックアップを装備したアコースティック楽器などでの使用の際には、アコースティックな響きを残すためにドライ信号を混ぜることでバランスを取ってください。Blend が最小の際、真空管シミュレーション回路はバイパスされますが Bass、Treble、Level の各コントロールはアクティブのままです。

LEVEL:

マスターボリュームとして機能し、ドライブコントロールと連動します。

クリーンサウンドの場合は、LEVEL を最大に設定して、DRIVE で全体的な音量をコントロールしてください。

歪んだサウンドの場合は、DRIVE を使って全体的な歪みの量と全体的な出力のレベルを設定します。

BITE スイッチ:

ON (■) にすると、プレゼンスをブーストします。

歪んだサウンドではサウンドを引き締め、クリーンサウンド（Drive が 12 時未満に設定されているとき）では鮮明さを追加します。

LOOP スイッチ:

ON (■) にすると、エフェクトループ入出力をアクティブにします。

SEND & RECEIVE:

SEND は 1/4" モノラル標準フォン出力です。RECEIVE は 1/4" モノラル標準フォン入力です。

外部エフェクト等をプリアンプ部より前に配置したい際に使用します。

PHONES:

1/4" 標準ステレオフォンヘッドフォン出力。パワーアンプをミュートします。

注：32Ω 定格のヘッドフォンを使用することをお勧めします。

効率が低下してパフォーマンスが低下する可能性があります。

耳への影響を最小限にするために、レベルコントロールを必ず下げてください。

SansAmp XLR DIRECT OUT (DI アウト):

レコーディング現場で:

SansAmp XLR DIRECT OUT は内蔵のダイレクトボックスのように使用できます。ミキサー等に直接接続して、スピーカーから出てくるのと同じサウンドをテープまたはディスクに直接取り込むことができます。SansAmp 回路は真空管アンプ特有の暖かく豊かで自然な高音域と甘いオーバードライブ特性だけでなく、スピーカーエミュレーション機能は複数のマイクでマイキングしたかのような、スムーズなサウンドを演出します。

ライブ現場で:

この出力を PA システムに直接使用することができ、アンプの前にマイクは必要ありません。

XLR PAD スイッチ:

XLR 出力を介して異なる入力レベルの機器に接続することができます。

-20dB (■): ラインレベルの信号を 20dB PAD します。

0dB (■): ラインレベル出力。

GROUND LIFT スイッチ:

このスイッチを ON にする (■) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。また、このスイッチを OFF にする (■) とグラウンドが接続されます。

リアパネル



ヒューズ:

下記の使用のヒューズに交換してください。

100V - 120V ユニット: T 6.3 A を使用

注意: ヒューズホルダーは A / C コードレセプタクルの内側にあります。ヒューズを交換するには、専門の知識と設備が必要です。

一般のお客様はご購入の販売店様へご連絡ください。

WORLDWIDE POWER SUPPLY:

VT Bass 500 は、100 - 250 VAC、50/60 Hz の範囲の電圧で使用可能です。

日本国内での仕様の場合は 電圧切り替えスイッチが 100V の位置にあることを必ず確認してください。

電圧切替スイッチ:

日本国内での仕様の場合は このスイッチが 100V の位置にあることを必ず確認してください。

温度管理ファン:

ファンは必要に応じて自動的にオンになります。本体が高音になりすぎた場合には、自動的に電源を OFF する熱保護回路が搭載されています。

本体が安全な温度まで温度が下がると通常動作を開始します。

注: 直射日光が過熱の原因となる可能性があります。

注: 本体のすべての面に対して空間があり、側面と背面の通気口がふさがっていない状態で設置してください。

SPEAKON® SPEAKER OUTPUTS:

バラレルで配線されています。スピコンプラグは確実にロックでき、最大の電力伝達を確実にし、確実な接続を提供します。

総最小インピーダンス: 4Ω 500W RMS @4Ω 300W RMS @8Ω

注: 1/4 インチジャックコンバータを使用すると、500W の出力を処理出来ない可能性があり、アンプ、スピーカーキャビネットのどちらか / 両方を損傷する恐れがありますので使用しないでください。

スペック

入力インピーダンス	4.7MΩ / PAD 時: 10 kΩ
入力レベル	150mV / PAD 時: 500mV
最低負荷インピーダンス	4Ω
最大出力	500 Watts RMS @ 4Ω (minimum load) 300 Watts RMS @ 8Ω
入力インピーダンス - パワーアンプ	1MΩ
入力レベル - パワーアンプ	500 mV to clipping
出力インピーダンス - プリアンプ	1kΩ
出力レベル - プリアンプ	通常 500 mV
XLR 出力レベル	0 to -20dBm
電源	100 V/50-60 Hz
サイズ	267 x 70 x 216 mm
重量	約 3kg